

# 【団研ニュース 2024年冬号】

2024.12.1 団研係

編集発行 地学団体研究会 団研係 〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-16-6 古峯ビル402

TEL:03-3983-3378 FAX:03-3983-7525 Email:chidanken@tokyo.email.ne.jp

## <島弧深部構造研究グループ>

島弧深部構造研究グループでは、ネオテクトニクス研究会との合同発表会を、8月4日（日）にオンラインで開きました。発表内容は次の通りでした。

- コンボリュート葉理頂部の平坦化とその意義—水膜と砂岩脈の形成—（二村光一）
- 新潟県北部笹川流れの岩船花崗岩中の鍾乳洞？（佐藤和平）
- 赤沢層火山岩類の化学組成（小松宏昭）
- 深部構造と地震波トモグラフィ（足立久男）
- GNSS 測地データからみた地殻変動（小林和宏）
- 能登半島地震に学ぶ その2—地震性隆起と“地震性沈降”（久保田喜裕）

次回の合同発表会は、2025年2月16日（日）13:00～17:00（オンライン）です。関心のある方はご連絡ください。  
連絡先：足立久男 [q.adachi@outlook.jp](mailto:q.adachi@outlook.jp)

## <設楽団体研究グループ>

流紋岩の調査を継続しています。12年ほど前に歩いたコースを再び調査をしています。12年間に蓄えた流紋岩の知識が現在の調査に活かされているように感じています。また、メンバーが一人増え、新鮮な目で見えて生じた疑問がどンドンぶつけられます。これまでなかったような議論が行われ、団研のゴールの方向が見えてきたように思っています。なお、調査は日帰りで行っています。参加をしていただける方は、連絡をお願いします。

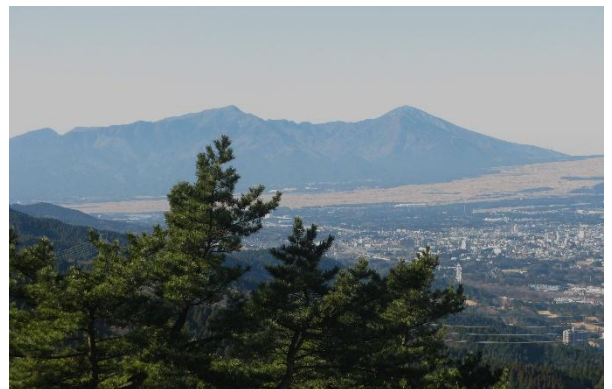
連絡先：吉村暁夫 [pippi@ma.medias.ne.jp](mailto:pippi@ma.medias.ne.jp)

## <箱根発生期団体研究グループ>

箱根発生期団研はメンバーが高齢化し、まるで老人クラブのようになりつつありますが、研究意欲は依然として高いのでまだまだ消え去ることはないと思っています。月に一度の野外調査と室内団研を定期的におこなっています。赤根ヶ沢と滝沢川のテフラ層序を近いうちに論文として出すことを当面の目標に掲げています。冬の団研の予定は以下の通りです。

- 11月12日（火）野外調査：御殿場線駿河小山駅 10時集合
- 11月26日（火）室内団研：池袋地団研事務所 11時集合
- 12月10日（火）室内団研：同上
- 12月24日（火）室内団研：同上、終了後納め会予定

連絡先：宮城晴耕 [smiyagi@kir.biglobe.ne.jp](mailto:smiyagi@kir.biglobe.ne.jp)



箱根足柄峠から見た愛鷹火山。箱根火山の南西側に位置する別の火山で、玄武岩からデイサイト質の岩石からなる。デイサイトには角閃石が多く含まれており、箱根火山のテフラで角閃石を多く含むものは愛鷹火山起源の可能性があるのでないかと考えられている。

### <朝日団体研究グループ>

団研では、これまでに38個のジルコン U-Pb 年代を測定して、地質学会山形大会では火成活動の時間・空間的な変遷とその意義について報告することができた。まとめ作業の中では、岩体の特性や分布などについて新たな課題が得られた。

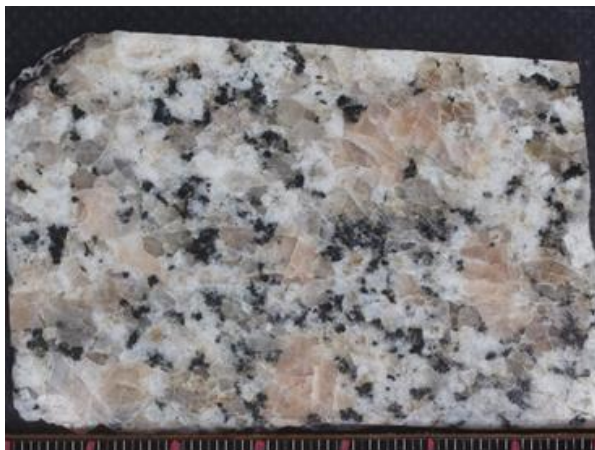
さて団研ニュースの場を借りて、朝日山地の代表的な山と地質について、まず三方境から紹介していきたい。

三方境 1,591m は、ちょっとマイナーな山名であるが、主稜線のほぼ中央部に位置し、北の以東岳と南の大朝日岳および東の大井沢集落に至る三叉路にあたる。丸みを帯びたなだらかな山容で、山頂には径 0.5~2m 程度の多数の巨礫がマサ化した地山に散らばる。地質は斑状粗粒の黒雲母花崗岩からなる。この花崗岩は、最大長径が 8cm の斑状カリ長石（右の写真で淡ピンク色の鉱物）が特徴で、北の大鳥池湖畔から三方境付近まで東西、南北ともに約 6km に及ぶ大きな岩体で「以東タイプ」と呼んでいる。色指数は約 6 と小さいが、岩体全体では 10 を超えるところもある。U-Pb 年代は 91Ma で、古期花崗岩類のなかでも新しい花崗岩に含まれる。

連絡先：大坪友英 [ohsubo@tokyocivil.co.jp](mailto:ohsubo@tokyocivil.co.jp)



三方境の山頂、右へ大朝日岳、左へ以東岳



三方境山頂の黒雲母花崗岩

※写真長辺 7cm

### <岩見沢団体研究グループ> 2024 年秋の調査報告

今年の大雪山の初雪はいつもよりかなり遅かったようですが、10月に入ると急速に秋が深まり平地でも紅葉が進んでいます。

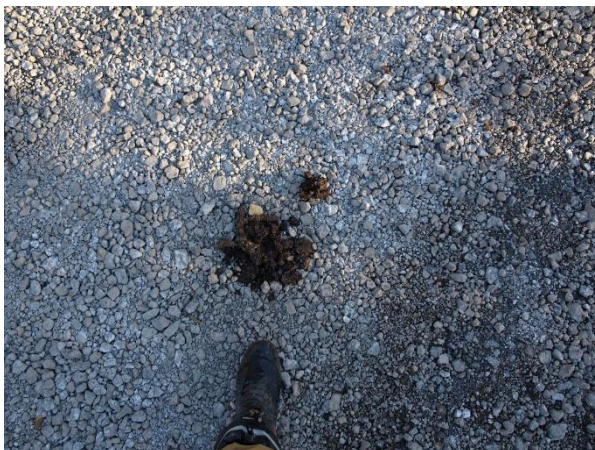
9月7日に室内団研、10月8日と20日に野外調査を実施しました。10月8日の調査では探していた「追分火山灰（仮称）」の露頭がバッチリ見付き大きな成果があがりました。畑の造成などでこれまで探した露頭が次々と観察不能になる中、逆に新しく造成された場所にできた露頭に目当てのものが見付きメンバー一同歓喜の声！

10月20日には新しい露頭をもとめて樽前山の南麓を流れる覚生川（おぼっぶがわ）に入りました。樽前で泥流などが発生した際に備えるための巨大な砂防施設に驚きつつ、ところどころに残された大量のヒグマの糞の山にビビりつつ調査を行いました。露頭はあるのですが、目当ての火山灰にはお目にかかれませんでした。11月に入ると雪も降り始めるので今シーズンの野外調査は一旦終了し、次回からは室内でまとめの作業に入る予定です。

連絡先：金川和人 [kanagawa@pop12.odn.ne.jp](mailto:kanagawa@pop12.odn.ne.jp)



新しく見つけた露頭



ヒグマの糞